

◆京都府

みやこ

京あんしん
こども館の
取り組み

◆成立と運営

愛称「京あんしんこども館」は正式名称「京都市子ども保健医療相談・事故防止センター」で、京都市の真中、京都御所の西、京都府庁の南で、京都第二赤十字病院（第二日赤）の南端、旧京都市立梅屋小学校跡地にあります。当館は2階建、延べ床面積約800m²（一部地元福祉施設を含む）で、1階に研修室、2階に子どもセーフティーハウス、誤飲防止コーナー、安全グッズコーナー、フリースペース、相談室（2室）と事務室があります。梅屋小学校が平成7年に廃校になり、平成11年12月に京都市立小学校跡地活用審議会で、梅屋小学校跡地に第二日赤の救命救急センターと一体的に「子ども事故防止センター」を整備することが承認されました。これには元第二日赤副院長の故水田隆三先生（小児科医）や同院小児科医のこれまでの子どもの事故調査・研究の業績が関与したと思われます。平成12年4月に第二日赤院長に就任した私は第二日赤救命救急センターおよび当館の建設にかかりました。平成13年1月、「子どもの保健医療相談」が加わり、平成15年3月、京都市と管理を委託された第二日赤とで「子ども保健医療相談・事故防止センター」の概要をまとめ、平成16年8月、京都市により竣工・開設されました。職員は常勤医師、非常勤嘱託医師各1名、第二日赤小児科



医や府小児科医会の協力医師、と保健師・看護師各1名、事務員1名で、通常は3名勤務で、研修会・講習会には全員集合しています。ほかにも、多くのボランティアの協力があります。月曜日休館、木曜日は12時～20時、ほかの日は10時～18時まで開館しています。

◆事業内容

1) 子どもの保健医療相談

電話相談・来館しての相談（何時でも相談できる）、時間のかかる相談は予約が必要。医療相談は当館小児科医や京都府医師会の小児科医による相談や専門医への紹介などを行ない、保健相談（予防接種を含む）には保健師、看護師や医師が対応しています。電話相談の内容は、さまざまですが、新米お母さんが発熱や病気のことでセカンドオピニオンを求めるものが多く、かかりつけ医や保健所などでわかりやすい説明の必要性、重要性が感じられました。当館は事故や予防接種などや育児不安の相談が多く、子育て支援者としての役割を果たしていると思っています。

2) 子どもの事故防止について

館内に一般家庭と同様、玄関、居間、台所、トイレ、風呂場、寝室、階段、ベランダなどを設け、家庭内の事故発生の危険な場所や物を多く備え、それぞれの場所で掲示してあるパネルや展示してある誤飲されたもの（実物）をみて、防止対策を職員の説明を聞き研修します。事故防止安全グッズ、自転車用ヘルメット、チャイルドシートなど実物を置き、重要性を伝えていきます。その他、チャイルドシート装着講



図1 2階のフリースペース

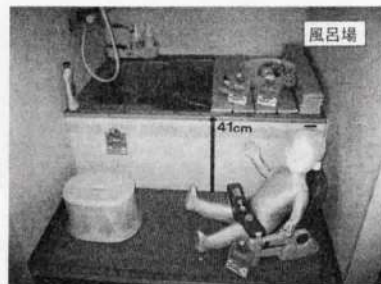


図2 お風呂場

みどりのカードにおこりやすい事故と対応が書いてある

習会、事故応急手当として心肺蘇生法講習会を平成18年度に8回、消防署や病院などと共催しました。

◆活動のまとめ

平成16年8月からの3年間の来館者数は8,675人（年平均2,892人、月平均241人）で、個人来館者と団体来館者が2対1でした。子ども連れのお母さんやお父さんが多く、団体来館者は18年度の1年間に行政関係23、大学生・看護学生・幼稚園・保育園など保育関係18、子育て支援関係11、その他8の合計60団体でした。子育てや子どもの事故の講演と館内の見学と防止のためのグッズなどの研修を、約2時間のコースで行なっています。また、平成19年4月から京都市内で出生した赤ちゃんを対象に、事故発生の調査を開始しました。（文：澤田 淳／京あんしんこども館、京都市子ども保健医療相談・事故防止センター）